

コトナリ、入門ニ云、俗ニ便毒ト云、實ハ血疝ナリ、腿膀小腹ノ間ニ生ズ、乃チ厥陰肝經及ビ衝任督三脈ノ隧、乃チ精氣出入ノ路ナリ、

〔病名彙解〕^二横痃^一 便毒ノ別名ナリ、前ニ見タリ、痃ハ、字書ニ、小腹下ノ病ト云リ、

〔本朝醫談〕便毒を鷹取の書に、疝の類といふ説あり、今これを見るに、皮かたくしてたやすく潰がたきは、疝の類といふも可なり、鷹取の蝨の黒焼をつくる、是をつくれれば、其わづらひが汗になつて出る、便毒によらず用べしといへり、婦ナメクシリと訓、蝨蝨の事ナ

〔陰徳太平記 二十八〕陶全蓋最後之事

入道ノ最後ノ式、荒々語ラセテ、扱ハ疑所ナキ入道也トテ、彼死骸ノ有所ニ行テ見レバ、陶ノ入道ノ屍ト思シキニ、股ニ十文字ニ破レタル疵ノ癍アリケリ、二宮、是ハ一年入道便毒ヲ煩ハレタリシガ、究テ剛氣ノ人ナリケル故、脇刺ヲ以テ十文字ニ切破リ、藥ヲ付テ保養セラレ、忽平愈シタリト聞ツルガ、其癍ニテゾ候ベキト云ケレバ、各サテハ首ト云死骸ト云、今ハ彌無疑入道也ケリトテ悦ビ勇事限ナシ、

〔病名彙解〕^一遺毒^一 小兒ニ生ズル瘡ナリ、外科正宗ニ云、遺毒ハ乃チ未生ノ前ニアリ、胞胎ニアツテ稟受ス、父母楊梅瘡ノ後、餘毒イマダ盡ザルノ精血孕成故ニ既ニ生ズルノ後、熱湯ニテ洗浴シ、衣物ニ烘薰セラレ、外熱内毒ヲ觸動シテ、必ズ肌膚ノ表ニ發ス、先紅點ヲ出シ、次ニ爛斑ヲナス、甚シキモノハ口角穀道、眼眶鼻面ノ皮肉俱ニ壞、多クハ乳哺ヲ妨ゲ、啼叫安カラズトナリ、

〔漫遊雜記〕^上 微毒受于母胎者、甚難治、假令一旦得痊、後必復發、爲人父母者、豈可不思諸交精之初乎、

〔倭名類聚抄〕^三淋病 聲類云、淋^{音林}、字亦作淋^{音利}、小便數也、

〔箋注倭名類聚抄〕^二慧琳音義再引同淋作淋、一引作淋、謂小便數而難出也、按說文、淋、淋々、山下水

貌、淋、疝痛、二字不同、蓋是病以小便淋々、名曰淋、故聲類云、淋、小便數也、後人從疝以別水淋々、字、釋